



とくていひ えいりかつどうほうじん  
特定非営利活動法人

じりつしえん  
自立支援センター

おおいた

べっぷりつきたしょうがっこう ねんせい ちようさ  
「別府市立北小学校5年生のバリアフリー調査」に

てつだ い き  
お手伝いに行ってきました！！

だい 11 号 発行年月日:2006年08月28日(月)  
発行元:とくていひ えいりかつどうほうじん  
特定非営利活動法人  
自立支援センターおおいた  
編集担当者:ごたんだ のりゆき ぶくだ ひろのり  
五反田 法行 ・ 福田 浩範

私<sup>わたし</sup>が担当<sup>たんとう</sup>した班<sup>はん</sup>は、別府<sup>べっぷ</sup>駅<sup>えき</sup>構<sup>かま</sup>内<sup>うち</sup>、お土産<sup>みやげ</sup>屋<sup>や</sup>さん、B-Passage、コンビニ、ミスタードーナツ<sup>ミスタードーナツ</sup>等<sup>ら</sup>を調査<sup>たうさ</sup>する担当<sup>たんとう</sup>で、子供<sup>こども</sup>達<sup>たち</sup>は、車椅子<sup>くるまいす</sup>の体験<sup>たいけん</sup>をしながら皆<sup>みな</sup>で興味<sup>きょうみ</sup>深<sup>か</sup>そうに散策<sup>さんさく</sup>、調査<sup>たうさ</sup>していましたが、高<sup>たか</sup>い場所<sup>ばしょ</sup>へ陳列<sup>ちんれつ</sup>されている商品<sup>しょうひん</sup>に手<sup>て</sup>が届<sup>と</sup>かないということで、車椅子<sup>くるまいす</sup>に乗<sup>の</sup>る人<sup>ひと</sup>達<sup>たち</sup>の大変<sup>たいへん</sup>さを実感<sup>じっかん</sup>したようでした。また、エスカレーター<sup>えスカレーター</sup>に乗<sup>の</sup>りプラットホーム<sup>プラットホーム</sup>へ上<sup>あ</sup>った際<sup>さい</sup>には、電車<sup>でんしゃ</sup>への乗り方<sup>のりかた</sup>や車中<sup>しゃちゆう</sup>での車椅子<sup>くるまいす</sup>専用<sup>せんよう</sup>の座席<sup>ざせき</sup>についてなどを駅員<sup>えきいん</sup>さんに質問<sup>しつもん</sup>していました。注目<sup>ちゆうもくてん</sup>点<sup>てん</sup>として、「視覚<sup>しかく</sup>障害<sup>しょうがい</sup>者<sup>しゃ</sup>誘導<sup>ゆうどう</sup>ブロック<sup>ブロック</sup>に沿<sup>そ</sup>って歩<sup>ある</sup>いてみると今<sup>いま</sup>まで気付<sup>きづ</sup>かなかったいろんなことが見<sup>み</sup>えてくるよ」というアドバ<sup>あ</sup>イス<sup>いす</sup>を少ししましたが、B-Passage<sup>ない</sup>内<sup>うち</sup>には誘導<sup>ゆうどう</sup>ブロック<sup>ブロック</sup>がネットワーク<sup>ネットワーク</sup>されておらず、「目<sup>め</sup>の見<sup>み</sup>えない人<sup>ひと</sup>は、そこにあるトイレ<sup>トイレ</sup>へどうやってたど<sup>たど</sup>つのか」とみんな<sup>みんな</sup>で話<sup>はな</sup>していたのが印象<sup>いんしょう</sup>的<sup>てき</sup>でした。

記事担当:河野 龍児

北<sup>きた</sup>小学校<sup>しょうがっこう</sup>の生徒<sup>せいと</sup>さん4名<sup>めい</sup>と引率<sup>いんそつ</sup>の教頭<sup>きやうとう</sup>先生<sup>せんせい</sup>と一緒<sup>いっしょ</sup>に関汽<sup>かんき</sup>タクシーへバリアフリー体験<sup>たいけん</sup>学<sup>がく</sup>習<sup>しゅう</sup>に行<sup>い</sup>って来<sup>き</sup>ました。まず関汽<sup>かんき</sup>タクシーの担当<sup>たんとう</sup>の方<sup>かた</sup>から説明<sup>せつめい</sup>があり、続いて生徒<sup>せいと</sup>さん達<sup>たち</sup>が実際に車椅子<sup>くるまいす</sup>に乗<sup>の</sup>ってリフト<sup>りふと</sup>タクシーへの乗降<sup>じやうこう</sup>体験<sup>たいけん</sup>をしました。担当<sup>たんとう</sup>の方<sup>かた</sup>からシートベルト<sup>ひつようせい</sup>の必要<sup>くわい</sup>性<sup>せい</sup>や車椅子<sup>くるまいす</sup>を固定<sup>こてい</sup>する器具<sup>き</sup>の操作<sup>そうさ</sup>方法<sup>ほうほう</sup>を聞<sup>き</sup>くと生徒<sup>せいと</sup>さん達<sup>たち</sup>は不思議<sup>ふしぎ</sup>そうな顔<sup>かお</sup>をしていましたが、僕<sup>ぼく</sup>が実際に体験<sup>たいけん</sup>談<sup>だん</sup>を交<sup>まじ</sup>えて話<sup>はなし</sup>をするとなるほどと言<sup>い</sup>った顔<sup>かお</sup>でうなずいてくれました。ストレッチャー<sup>せつちしゃー</sup>のままタクシーに乗降<sup>じやうこう</sup>する体験<sup>たいけん</sup>、説明<sup>せつめい</sup>をしてもらった後<sup>あと</sup>、僕<sup>ぼく</sup>が普段<sup>ふだん</sup>運<sup>うん</sup>転<sup>てん</sup>している車<sup>くるま</sup>を見<sup>けん</sup>学<sup>がく</sup>・体験<sup>たいけん</sup>乗車<sup>じやうしゃ</sup>してもらいました。普段<sup>ふだん</sup>、障<sup>しょう</sup>がいがある人<sup>ひと</sup>の運<sup>うん</sup>転<sup>てん</sup>する車<sup>くるま</sup>に触<sup>ふ</sup>れる事<sup>こと</sup>がないからでしょうが生徒<sup>せいと</sup>さん達<sup>たち</sup>にはたいへん喜<sup>よろこ</sup>んでもらえたようでした。今<sup>こん</sup>回の体験<sup>たいけん</sup>学<sup>がく</sup>習<sup>しゅう</sup>を通<sup>つう</sup>じて生徒<sup>せいと</sup>さん達<sup>たち</sup>がバリアフリーに関心<sup>かんしん</sup>を持<sup>も</sup>ってくれたらいいなと思<sup>おも</sup>いました。

記事担当:福田 浩範

北<sup>きた</sup>小学校<sup>しょうがっこう</sup>の生徒<sup>せいと</sup>さん二十数<sup>にじゅうすう</sup>名<sup>めい</sup>と先生<sup>せんせい</sup>1名<sup>めい</sup>で、ゆわいの宿<sup>やど</sup>「竹<sup>たけ</sup>の井<sup>い</sup>」<http://www.takenoi.jp/>でのバリアフリーチェク<sup>チェック</sup>でした。生徒<sup>せいと</sup>さんもデジカメ<sup>と</sup>やメモ<sup>と</sup>を取<sup>と</sup>ったりと、にわか新聞<sup>しんぶん</sup>記者<sup>きしゃ</sup>状<sup>じやう</sup>態<sup>たい</sup>です。ホテル<sup>ホテル</sup>の車椅子<sup>くるまいす</sup>を借<sup>か</sup>りて、車椅子<sup>くるまいす</sup>体験<sup>たいけん</sup>も何人<sup>なんにん</sup>かの生徒<sup>せいと</sup>さんにしてもらいました。授業<sup>じゆぎやう</sup>としての調査<sup>たうさ</sup>もいいのですが、もって体験<sup>たいけん</sup>を通<sup>とお</sup>して学<sup>まな</sup>んだ方が、理解<sup>りかい</sup>が深<sup>ふか</sup>まるのではな<sup>あ</sup>いかと思<sup>おも</sup>いました。

記事担当:米倉 仁

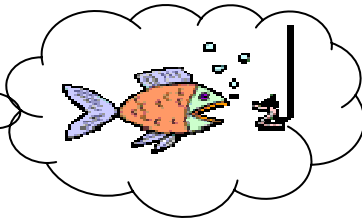
別府<sup>べっぷ</sup>市<sup>し</sup>立<sup>りつ</sup>北<sup>きた</sup>小<sup>しょう</sup>学<sup>がく</sup>校<sup>こう</sup>5年<sup>ご</sup>生<sup>せい</sup>のバリアフリー調査<sup>たうさ</sup>として、北<sup>きた</sup>浜<sup>はま</sup>温<sup>おん</sup>泉<sup>せん</sup>-テ<sup>て</sup>ル<sup>る</sup>マ<sup>ま</sup>ス<sup>す</sup>-へ伺<sup>うかが</sup>いました。計<sup>けい</sup>10名<sup>めい</sup>前<sup>まへ</sup>後<sup>ご</sup>で施設<sup>しせつ</sup>内<sup>うち</sup>のチェク<sup>チェック</sup>を行<sup>おこな</sup>いましたが、時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>の経<sup>けい</sup>過<sup>か</sup>と共<sup>とも</sup>に緊<sup>きん</sup>張<sup>ちやう</sup>もほぐれてきた様<sup>よう</sup>で質<sup>しつ</sup>問<sup>もん</sup>も活<sup>かつ</sup>発<sup>ぱつ</sup>に行<sup>おこな</sup>われていました。当<sup>とう</sup>初<sup>しよ</sup>予<sup>よ</sup>定<sup>てい</sup>して<sup>い</sup>た車椅子<sup>くるまいす</sup>体験<sup>たいけん</sup>がで<sup>で</sup>来<sup>き</sup>なくな<sup>な</sup>り私<sup>わい</sup>自<sup>じ</sup>身<sup>しん</sup>、と<sup>と</sup>ても残<sup>ざん</sup>念<sup>ねん</sup>に思<sup>おも</sup>いましたが、入<sup>に</sup>浴<sup>よく</sup>のさい<sup>さい</sup>の問<sup>もん</sup>題<sup>だい</sup>点<sup>てん</sup>などの質<sup>しつ</sup>問<sup>もん</sup>に答<sup>こた</sup>えて<sup>い</sup>る最<sup>さい</sup>中<sup>ちゆう</sup>も真<sup>ま</sup>剣<sup>けん</sup>に耳<sup>みみ</sup>を傾<sup>かたむ</sup>ける姿<sup>すがた</sup>がと<sup>と</sup>ても微<sup>ほ</sup>笑<sup>ほえ</sup>ましく、授<sup>じゆ</sup>業<sup>ぎやう</sup>の一<sup>いっ</sup>環<sup>かん</sup>だけ<sup>だけ</sup>ではな<sup>な</sup>く、興<sup>き</sup>味<sup>み</sup>・関<sup>かん</sup>心<sup>しん</sup>をも<sup>も</sup>って<sup>ら</sup>え<sup>ら</sup>たらと期<sup>き</sup>待<sup>たい</sup>して<sup>い</sup>ます。記事<sup>きじ</sup>担<sup>たん</sup>当<sup>とう</sup>:五十<sup>い</sup>十<sup>じ</sup>風<sup>ふう</sup> えり

(<http://www.city.beppu.oita.jp/01onsen/02shiei/08terumas/terumas.html>)



## フィールドトリップ『魚釣り & 交流会』

5月21日(日)に第10回目のフィールドトリップを開催しました。今回の企画は魚釣りをしながら、海辺で自分の好きなものを食べ、健常者・障がい当事者と一緒に交流を図りながら楽しもうというものでした。当日は天候にも恵まれ、5月とはいえ、日焼けをする人もいるくらいの日差しでしたが、体調を壊す方もなく無事、終了することができました。釣りなので釣果はというと、今回は少し寂しかったのですが、ヒトデを釣った方もいて、皆さん思い思いに楽しんでいただいていたように感じました。終了後にアンケートを書いていただいたところ、障がいを持たれて初めて魚釣りをしたという方。魚釣りは好きだけど、なかなかいけない。などといった意見もあり、嬉しいような悲しいような…。何はともあれ当日、事故なども無く、参加者の方々が楽しんでいる姿をみて、これからも皆さんに楽しく参加していただけるような企画を考えていきたいと再確認しました。これからもご参加よろしくお願ひします。



記事担当：若杉 竜也

## フィールドトリップ「夜のバリアフリー探険 & カラオケ交流会」

第11回目の「夜のバリアフリー探険 & カラオケ交流会」が6月24日(土)に開催されました。様々なハンディーキャップを持たれた方で、別府の夜の街に一人では行きにくい、行きたいけど機会がないなど、今まで障がいを理由にやりたい事をためらっていた方が、この企画により、夜の別府の街に挑戦して頂ければと考えて開催されました。参加者は、現在、大分県内にお住まいで障がいを持たれている方(障がい者19名・健常者12名)合わせて31名の方が参加されました。夕方17:30に別府竹瓦温泉前に集合しスタート。まず「プログラム1」別府B級グルメを堪能する事になりました。B級グルメとは、別府人が大好きな「安くて・美味しく・人の顔が見える食べ物」の事です。6グループに別れ各班で店を探る事になり、グループFの方は、竹瓦温泉裏路地にある中華料理店「一二三」に入りました。店に入りメニューをチェック、大好物である「かに玉」をすぐに注文、料理が運ばれボリュームにびっくり！食べてみてそのおいしさに更に感激！もうビールが止まらなかった様です。時間は19:00、ほろ酔いになった所で、夜の別府の街へGO。3件の飲み屋さんに分かれて別府の夜の店を体験する事になりました。参加者の方のお話しでは、居酒屋などには来た事があるけど、飲み屋さんには行く機会が無く初めて来ましたという方も多く居られ、お話しもはずみとても楽しまれていました。次に、「は・し・ご」という事でもう一軒飲み屋さんに行き、ここでは各グループが合流し全員での交流となりました。ここでは皆さん、和気藹々と飲み屋さんを楽しんでいました。時間が過ぎ、飲み屋さんを出る事になり、参加者の方の中には、もう少し居たい、また今度絶対に来たいという方もおられました。そして、もうひとつの企画であるカラオケ交流会に移りました。竹瓦温泉小路内にある、夢喰夢叶とその隣にあるサロン岸の2件に分かれて交流となりました。交流では皆さんすっかり仲良くなり、日頃の生活の事や当日の事などお話をしたり、カラオケを歌ったりして盛り上がりあつという間に時間が過ぎ終了をむかえました。企画の中では健常者の方に車椅子に乗っていただく体験も行いました。体験された方は、こんなに腕が痛くなるとは思わなかった、少しの段差や傾斜でとても苦労しましたなど話されていました。今回、「夜のバリアフリー探険 & カラオケ交流会」において、障がいを持たれた方々が交流を通して、日頃気づかない新たな発見をし、多くの情報を取り入れる事が出来、楽しんでいただけたと思います。今後も障がい者・健常者を問わず、皆様が一緒になって楽しめる企画を考えていきますので、沢山の皆様のご参加お待ちしております。

記事担当：安富 秀和



## フィールドトリップうみたまご

平成18年7月15日(金)にうみたまごにて、自立生活プログラムの一環としてフィールドトリップうみたまごが行われました。今回のフィールドトリップでは、うみたまごでのチケットをかう所から始まり園内の観覧、昼食等を一日かけてのんびりゆったり見て回りました。



今回は参加者とスタッフを含め5人という少人数の中、参加者の方の歩調に合わせてながら、夏の暑い日差しが照る時期にも関わらず水槽の中を涼しそうにゆうゆうと泳ぎまわる魚を見て回り、ゆったりした時間を魚と共に過ごし・・・。イルカのショーやアザラシ達のショーも観覧しました



「うみたまご」は、マリンパレスから施設を新設し、2004年4月にオープン。海からの贈り物がたっぷり詰まった全く新しい水族館として「うみたまご」となづけられ、オープンから1年半で入館者数200万人を達成。現在も、休日には多くの家族連れやカップルが訪れます。

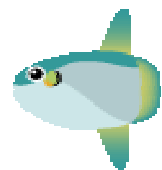
当時、身体障害者補助犬法が2002年10月に施行されたにも関わらず、うみたまごに盲導犬を連れて入館しようとした視覚障がい者を入館拒否したニュースが取りざたされました。この事は、うみたまごにとって忘れてはならない出来事となりました。

今回のフィールドトリップでは、うみたまごの屋外、室内共にエレベーターがしっかり配置されており、スタッフの対応もあたたかいものでした。この季節の屋外は暑いものの、のんびり魚を見て回るのであればお勧めの場所となっています。

うみたまごに関わらず施設の対応は今後も問題とされるところです。安心して、楽しく観覧できる施設が今後も増えていってほしいものです。フィールドトリップはそのきっかけにもなります。興味があるイベント等ぜひご参加ください。( <http://www.umitamago.jp/index.html> )



記事担当：武宮 陽子



# 市独自の軽減措置の要望書を別府市 浜田博 市長に提出

平成18年7月19日(水)に浜田市長に直接お会いし、障害者自立支援法の施行(4月)で福祉サービス利用料が原則1割負担となったことを受け、別府市内の団体・施設が市独自の軽減措置の要望書を提出しに別府市役所に行きました。その際要望に参加した団体、施設はNPOまいらいふ大分・NPO自立支援センターおおいた・障大協・社福法人朝日園・社福法人別府発達医療センター・さつき会共同作業所・NPOはっぴい・小規模作業所道しるべ・NPOべっぴん・NPO福祉の森・福祉フォーラムIN別府速見実行委員会(11団体、22名)でした。その場で各団体・施設から不安なことや困っていることを訴えました。障がい当事者・施設からの訴えとして「年金とわずかな工賃で暮らす障がい者にとって、一割負担は重い」、「施設から退所しないといけませんが、退所した後に住む場所が無い」、「施設の利用控えが続くと運営にも大きく影響する、これから安定し、よいサービスを提供していくためにも支援が必要」などを市長に直接訴えました。

こういった訴えを聞き、浜田市長からは「県の調査以外にも市でアンケートを実施するなどして、深刻な事態は把握している。九月議会に向けて前向きに検討している」との返事を頂きました。浜田市長から前向きな返事を聞いたので今後、大分県に続き別府市も市独自の利用者負担軽減を十月から実施するといふ発表をできるだけ早く聞けたらと思いました。 記事担当：五反田 法行

## 第5回福祉フォーラムIN別府速見 連続セミナー第1回目

第5回福祉フォーラムIN別府速見の連続セミナー第1回目が8月5日(土)、別府大学34号館115教室で行われました。

テーマは「住みやすい生活空間を求めて」約40名が参加し、基調講演に倉富隆則氏、パネリストに鈴木義弘氏(大分県ユニバーサルデザイン委員会委員、大分大学工学部助教授)、小田博道氏(社会福祉法人太陽の家事業部)、河野龍児氏(当センタースタッフ)そして司会に篠藤明徳氏(別府大学文学部人間関係学科教授)を迎え行われました。

この福祉フォーラムは今年で5年目、誰もが住みよい町づくり、別府の福祉関係者・団体外のネットワークを作ること等を目的に、昨年度に続き3回の連続セミナーという形で、福祉フォーラムIN別府速見実行委員会と別府大学人間関係学科の共催にて行われるようになりました。基調講演に倉富隆則氏による「九州地区公共交通機関のバリアフリーの状況」ということでの話から始まりました。倉富氏は九州の各JRの駅を本人で利用し、エレベーターの設置、ホームから列車に乗る際の段差解消のための高上げ、身障者用のトイレの設置状況など事細かにデータを収集されていました。倉富氏の九州各県の駅を回っている行動力にも驚きましたが、それよりも驚いたのは大分県の各駅の現状でした。同じJRでも管轄の駅が大分県に入った途端に、エレベーターの設置やホームの高上げ等がほとんど行われていない状況は、倉富氏のデータをみると一目瞭然でした。

続いてパネリストの鈴木義弘氏から、欧米の交通バリアフリーとの比較ということでプロジェクターを利用して話をされていました。福祉の先進国家では日本とは違い歩行者の為に、道路の整備がされているという話には興味深いものが有りました。当センタースタッフ河野龍児からは、大分市のノンステップバスの現在の状況、実際に問合せた際のこれからの運行予定の報告を行いました。現状での運行予定は無いということは非常に残念です。

最後に、小田博道氏から現在の住宅事情についての話がありましたが、住宅とみなす基準は各国で違いがあり、お風呂、トイレが無い家でも日本では住宅の戸数に入るが、ドイツ等では入らない等と色々勉強になりました。

大分県の交通バリアフリーの状況が九州のみならず、全国的にも最低に近いということをお聞き知らされました。基調講演の倉富氏の話にもありましたが、皆で行動し訴えていかなければいけないということを感じさせられる一日でした。

記事担当：河野 博



## 平成18年度に当センターで行う予定の助成事業・委託事業の一覧です！

### 平成18年度「泉都別府ツーリズム支援事業」

この度、平成18年度「泉都別府ツーリズム支援事業」におきまして、市の助成金により、住みよいまちづくり推進及び泉都、観光のまち別府の活性化に繋がる様、事業を行う事となりました。この事業にあたり当団体では、「バリアフリー調査とホームページによる情報公開事業」を行います。さまざまなハンディキャップを持たれた方や高齢者など、全ての方々に優しいバリアフリーのまちづくりを推進し、市内にお住まいの方から観光客まで、安心して楽しめるまち別府をホームページにより情報発信し全国に広くPRしていきます。別府市内及び別府市周辺における、(観光施設、公共施設、温泉施設、飲食店)等のバリアフリー状況を調査します。「バリアフリー調査とホームページによる情報公開事業」において観光施設、公共施設を含めた交通及び施設等のバリアフリー状況を検証するにあたり、障がい当事者が調査実施を行うことで、別府におきましてのバリアフリー情報をより詳細に調査できると考えています。

記事担当：安富 秀和

### 平成18年度NPOパートナーシップ推進事業

今回、NPOパートナーシップ推進事業として、県との協働で『九州石油ドーム』『大分駅周辺』のユニバーサルデザイン度調査を行うことになりました。目的としましては、広く県民の方々より参加者を募り、調査を進めていく上でユニバーサルデザインとは何かを言うことを知っていただき、参加者の意見を県と共にこれからの施設整備などの基本資料として活用し「住む人が暮らしやすく、訪れる人にやさしい大分県の創造」を基本目標とし、誰もが利用しやすい環境づくりを促進していきたいと考えています。みなさんも、誰もが使いやすく安全で、満足できる環境づくりを共に考えてみませんか？

記事担当：若杉 竜也

### 平成18年度「ユニバーサルデザインのまちづくりワークショップ」開催！

大分県からの委託により、様々な分野へのユニバーサルデザインの啓発を目的として、大分県民の皆さんを対象にワークショップを別府市、由布市、大分市で、随時開催(詳細は、別紙チラシをご覧ください)致します。当日は、「ユニバーサルデザインとは、どんなものなのか」という講義に続いて、参加者の方々には、車椅子体験、視覚障がい者疑似体験、高齢者疑似体験、妊婦体験を通しての町中のユニバーサルデザイン度調査。そして、この疑似体験の中で感じた問題点や改善点等について意見交換、意見発表をするワークショップを行います。参加費は無料です。この啓発事業を通して、大分県を誰もが住みやすく、訪れ易い町になるような一助になればと考えております。

記事担当：河野 龍児

### 福祉ボランティア専門研修

大分県社会福祉協議会の助成により「福祉ボランティア専門研修」事業として『自立生活プログラム(ILP)リーダー養成研修』を行う事になりました。自立生活プログラム(ILP)とは、障がい者が自立生活に必要な心構えや技術を学ぶ場です。ILPのリーダーは障がいを持つ当事者が担当します。今回は県内で自立生活を営む障がい者とそれをサポートする介助者、また、これから介助に携わっていきたく考える健常者の方を対象にILPのリーダーとそれをサポートする介助者の方を養成します。この研修を通して当事者は介助者への指示の出し方を学び、健常者は介助者としてILPの中でどのようにサポートすれば良いのかを学んでいただきます。

記事担当：福田 浩範

# お知らせ

2006年

9月～12月の予定

これからも自立支援センターおおいたや自立生活センターおおいた  
 では、楽しい催し物をぞくぞくと行っていきますので、ご家族・ご友人  
 をお誘いの上、皆さんふるってご参加下さい。  
 詳細は、1ヶ月前にチラシや市報などによりお知らせ致します。  
 (催し物や日程は都合により変更の場合がございますので 予めご了承下さい。)

## ユニバーサルデザインまちづくりワークショップ

【別府市9月16日(土)・由布市11月11日(土)・大分市12月10日(日)】

自立生活プログラム・フィールドトリップ「晩夏の花火大会」	9月9日(土)
ILPリーダー養成講座	9月17日(日)～19日(火)
NPOパートナーシップ推進事業『九州石油ドームユニバーサルデザイン度調査』	9月24日(日)
福祉ボランティア専門研修	10月実施予定
人権啓発フェスティバルワークショップ	10月1日(日)
自立生活プログラム・フィールドトリップ夜に別府の街で交流会	10月21日(土)
グレートバリアフリー探検	11月5日(日)
第5回福祉フォーラム 第2回連続セミナー	12月2日(土)
NPOパートナーシップ推進事業『大分市ユニバーサルデザイン度調査』	12月10日(日)
自立生活プログラム・フィールドトリップ クリスマスパティー	12月16日(土)

## < 編集後記 >

残暑お見舞い申し上げます。残暑とはいえかなりの暑さが続いておりますが、皆さん、いかがお過ごしでしょうか。  
 前回の新聞発行から今回11号発行までの間、沢山の出来事やイベントがありました。フィールドトリップは「魚釣り」から「夜のバリアフリー」「うみたまご」と続きましたが、沢山のの方に参加いただき、スタッフ一同とても嬉しく思っています。また、その際の交流を通し外出時の不安の解消や自立への手立てになれたらと、今後も企画開催してまいりますので良かったら是非ご参加ください。もう少し暑い日が続きますが体調には気を付けて、乗り切りましょう。

( \* ^ ^ \* ) 編集後記担当: 五十嵐 えり

## 主なサービスは次の通りです。

- 訪問介助サービス
- ピア・カウンセリング
- 自立生活プログラム
- 福祉各種無料相談
- 自立生活・バリアフリーセミナー
- バリアフリーコンサルタント  
(ユニバーサルデザイン)

特定非営利活動法人 自立支援センターおおいた  
 〒874-0942  
 大分県別府市千代町13-14 エンパ-マンション 2F  
 TEL: 0977-27-5508  
 FAX: 0977-24-4924  
 E-mail: [333@jp114.com](mailto:333@jp114.com)  
 URL: <http://www.jp999.com/333/>

★ 私達は利用者主体の介助サービスを提供しています ★